PVC 190707 記録

文責：名倉

【日時】2019 年 7 月 7 日（日） 19:00-21:00
【演者】四家 明日香 氏
【疾患】子宮体がん、気分変調症 等

【感想】

●医療従事者と患者の知識の差

・いわゆる薬の作用や効果に関する点は医療従事者の方が知識を持っているが、いざお金（自立支援をはじめとした補助制度など）の話になると、必ずしも詳しいとは限らない。
・全ての医療従事者がそれらを完璧に理解する、というところまで行く必要はないと思うが、それらの支援制度があるなら頼りたい、というタイミングで医療従事者に頼って事を進めることができないのは問題（調子が優れない故に治療を行なっているわけであるから尚更）

→お金や生活との両立といった問題に対しては、その人の日常生活を見る機会の多い薬剤師や福祉職の方がアプローチが適している

→その中でも、患者が治療の中で必ず接する場所である「薬局」で、相談 or 福祉職につなぐのどちらかが抵抗なくできる場であると理想
（さらに、薬学教育の場で少しくらい扱ってもいいのにとは思います）

●患者は何を求めているのか

・よく言われる話として、医療者が知りたいのは病気の原因で、患者が欲しいのは症状の解消である、ということがある。「薬以外の対処法も」というのはまさにこれに当てはまる部分で、蕁麻疹様の症状が出たときに、その原因が特定できないという理由でコミュニケーションを絶ってしまうのは勿体無い

→せめて「想定される可能性として A と B とがあって、特定はできませんが、症状は XX することで少し楽になりますよ」といった、「症状そのもの」ではなくて「症状に対する苦痛の訴え」に寄り添える提案ができると信頼関係が構築できるのかなとは思う（実際的に容易ではないと思うが）。

●お薬手帳の活用

・患者側だけでなく、薬局側のお薬手帳の活用方法も多様化していて、薬局側から必要な情報をお薬手帳に載せている話も聞く。薬局のアピールポイントとして、患者とお薬手帳を介した日常生活面でのコミュニケーション・サポートができるというのが打ち出しやすいように世の中が変わっていく必要があると思った（感想です）

【講演メモ】（青字は筆者の感想）

●自己紹介

・「薬剤師にはいつもお世話になっています」

・介護福祉士の資格持ち、気分変調症・うつ病・子宮体がんの経験者

●発症の経緯

・1 ヶ月くらいの間に急激にお腹が張ってきた

→鍼灸院に行ったことがきっかけとなり内科を受診

→子宮体がん Stage IIIa と診断

→腹部の張りの正体は腹水（約 8kg も溜まっていた、腹水転移はなし）

・TC 両方＋外科手術

「ベルトコンベアーに乗ったように」あまり考える余裕もなく進んでいった

●診断後

・病院からは「情報を調べたりせずに治療に専念しなさい」と言われ驚愕

→患者は入院に際して仕事を失っていることも少なくなく、孤独を助長させる…

→今回は病院でがん患者会のフリーペーパーを見つけ、患者同士の繋がりを得ていた

・現在はホルモン補充療法（塗り薬）を受けながら、精神腫瘍科にもかかっている

※精神腫瘍科：がんの告知～治療後の患者や患者家族のケアを行う

●薬剤師 Episode1：補助制度

・精神疾患を持っている関係で自立支援などの補助制度を使用するが、薬剤師がその制度について詳しくない

→受給者証が交付される 4 ヶ月後までに何度も急かされたり

・理解のある薬局では、4 ヶ月後に受給者証が交付されることを見越して、初めから 1 割負担にしてくれたが、そうでない場所の方が多い（自分の経済的な負担を考えると厳しい）

・演者自身は福祉系の職に就いていた関係で制度に対してある程度の知識があったが、もし事前知識がなかったら果たしてそれを知り、利用することができていたか？

→制度を一番利用したいタイミングって、まさに体調が悪い時で、わかりにくい資料を読む余裕なんてないのに…

●薬剤師 Episode2：専門外とコミュニケーション

・生理不順の副作用や、薬を飲んだ後に蕁麻疹が出た時も、結局何が原因なのか？ということについてはアドバイス等をくれなかった

→精神科領域とがん領域の両方の薬を使用している患者は薬剤師から見ても、相互作用を起こす薬やきっかけが多く結論が出せないこともあるのだろうと思う。難しいし。しかし、もっと別の対応があったのではないだろうか？

・数多くの薬を飲んでいる患者さんに関わるときには、自分の得意な分野だけでなく、様々な疾患について複合的に見て欲しい

→今後は認知症＋生活習慣病のような方々も数多く増えてくるわけだから…

・薬を使用すること以外の対処の仕方も教えて欲しい

→ex.痛いときに、「痛み止めを飲む」だけでなく、どういう姿勢だと楽だとか、そういったことも教えて欲しい

●薬剤師 Episode3：インフルエンザ

・ゾフルーザ服用時にせん妄＋低体温

→薬局に電話し、指示を仰ぐことでことなきを得た

→「医師だと電話が繋がらないかも？」という理由でまず薬局にかけたそうだが、もっと積極的な理由で薬剤師が頼られるようになるといいなあとは思いました。

●お薬手帳の活用

・のぶさんの執筆本を読んでさらに色々工夫した

→主に自分の口で医師に説明する際に、内容を整理する意味でお薬手帳を使用している

・普段の様子、症状や副作用の経過を細かに記述している

→上述のゾフルーザ服用時のページを見ると、筆跡で自分がどういう状態だったのか想像できる（意識が朦朧として書いていたのだろうとわかる）

→書いてる文章の中身だけでなく、書いている患者の状態まで反映されているというのは、なかなか電子上のものだと代替できない

・お薬手帳に自分の経過を事細かに記しているので、患者としてはそれに対するリアクションが少しは欲しい。